

令和7年2月17日

守谷市議会議長 殿

委員長：田中 啓一 印

報告者：海老原博幸 印

総務教育常任委員会視察・研修報告

標記の件について、次のとおり参加したので報告します。

視察・研修日	令和7年2月3日
視察・研修場所	伊丹市市役所会議室
視察・研修項目	市役所建て替え
参加者	守谷市側 田中啓一委員長、山本広行副委員長、高橋典久委員、長谷川信市委員、青木公達委員、山田美枝子委員、海老原博幸委員 寺田文彦議長 総務部長:高橋弘人、 議会事務局:岩地祐子
	相手側 戸田龍起議長、中西寛主幹
視察・研修目的	伊丹市の新庁舎整備事業について
視察・研修内容	伊丹市の新庁舎事業の概要 ① 建て替えまでの経緯 当初の計画では平成33年から平成42年の期間での検討を予定していたが平成28年に発生した熊本地震を契機に防災拠点としての市庁舎の重要性を再認識し、同年建て替え時期の前倒しを決定し、平成29年に建て替え時期を平成32年(令和2年)に決定した。 ② 新庁舎建設の基本的な考え方 安全・安心の庁舎 ・免振構造、 免振構造にすることで出来た地下空間を地下駐車場として活用 ・災害時にも業務継続が可能(二方向からの電力供給、貯水タンク) 質の高い行政サービスを実現する庁舎 ・ユニバーサルレイアウト (親子傍聴席・車いす傍聴席・多目的スペース・キッズスペース等) ・ペーパーレス (オンライン申請) (対面式: 市民は用紙への記入なしでの証明書等の発行)

	<p>環境に配慮した庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZEB 庁舎(省エネで 50%の削減を達成)</li> <li>・太陽光発電</li> <li>・県産木材利用(隈研吾氏の設計)</li> </ul> <p>*ZEB(Net Zero Energy Building) 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する石油やガスなどエネルギーの年間消費量をゼロとすることを目指した建物</p> <p>ZEB Ready 省エネで 50%以上の削減を達成するもの</p> <p>大規模庁舎(10,000 m<sup>2</sup>超)の ZEB Ready 認証取得は全国初となる見込みとのこと</p> <p>多機能で誰もが利用しやすい庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン</li> <li>・総合窓口機能</li> </ul> <p>一階にはコンビニがあり、コンビニの隣には多目的スペースがあり視察当日多目的スペースには中学生が多数集まっていた</p> <p>新庁舎規模</p> <p>敷地面積 19,953.35 m<sup>2</sup></p> <p>建築・延床面積 4424.32 m<sup>2</sup> 21978.50 m<sup>2</sup></p> <p>階数・高さ 地下 1 階・地上 6 階、約 28.09 m<sup>2</sup></p> <p>事業費 合計 125.1 億円 実施設計費・建設工事費 107.7 億円</p>
<p>視察・研修総括 (今後の取組み等)</p>	<p>庁舎の設計に際しては障がい者団体に意見を出してもらうため合計 15 回の会議を開催したとのこと。</p> <p>何をつくるかではなく市役所で何をしたいかという視点で意見を募ったとのこと。</p> <p>隈研吾氏の設計ということで、窓には木製ルーバー、1 階の窓口フロアには多くの木材が使用されており、コストやメンテナンスという部分は別にして庁舎全体に温みを感じた。</p> <p>市庁舎が防災拠点という視点は重要だと考える。</p> <p>守谷市の場合防災拠点としての市役所として設置場所からの検討が必要。</p> <p>いずれにしろ、市がたたき台をつくり、それを市民に了承させるという進め方ではなく伊丹市のように市民の意見を集約したうえで設計に入るとい考え方が大切である。</p>